

「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー



## 「安土山図屏風」研究の最前線

### プログラム

13:30～14:00 『安土山図屏風』探索事業について」

松下浩（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課課長補佐）

14:00～15:00 「ヴァン・ウィングが描いた安土山図屏風スケッチの再考」

マーク・アードマン（メルボルン大学講師・安土山図屏風探索ネットワーク）

15:00～15:15 『安土山図屏風』について」

木戸雅寿（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課参事員）

15:15～15:30 休憩

15:25～16:30 パネルディスカッション：「安土山図屏風」研究の最前線

コメント：新保淳乃（武蔵大学講師・安土山図屏風探索ネットワーク）

パネラー：マーク・アードマン 新保淳乃

コーディネーター：木戸雅寿・松下浩

日 時：令和5年（2023）9月16日（土） 13：30～16：30

会 場：コラボしが21 滋賀県大津市打出浜2-1

主 催：滋賀県（文化スポーツ部文化財保護課）

発行日：令和5年（2023年）9月16日

編集・発行：滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL077-528-4678 FAX077-528-4956 E-Mail castle@pref.shiga.lg.jp

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/>

## ～「幻の安土城」復元プロジェクト～

# 歴史セミナー「安土山図屏風」研究の最前線

## 「ヴァン・ウィングが描いた安土図屏風スケッチの再考」ほか

今年度のセミナーでは、「安土山図屏風」の最新の研究状況について、屏風の調査研究に携わる「安土図屏風探索ネットワーク」のメンバーからご紹介いただきます。海外での調査も踏まえた最新の研究成果に、ぜひご注目ください。

どんな話か  
楽しみじゃか！



### セミナーの概要

1. 日時 令和5年(2023年)9月16日(土) 13:30～16:30 ※13:00 開場
2. 会場 コラボしが21 3階大会議室 滋賀県大津市打出浜2-1  
JR膳所駅より徒歩約15分 京阪石坂線石場駅より徒歩約5分
3. 内容  
13:30～14:00 『安土山図屏風』探索事業について～主旨説明にかえて～  
松下浩(滋賀県文化スポーツ部文化財保護課課長補佐)  
14:00～15:00 「ヴァン・ウィングが描いた安土図屏風スケッチの再考」(日本語での講演)  
マーク・アードマン氏(メルボルン大学講師・安土図屏風探索ネットワーク)  
15:00～15:15 『安土山図屏風』について  
木戸雅寿(滋賀県文化スポーツ部文化財保護課参事員)  
15:15～15:30 休憩  
15:30～16:30 パネルディスカッション:「安土山図屏風」研究の最前線  
コメント 新保淳乃氏(武蔵大学講師・安土図屏風探索プロジェクト)  
パネラー:マーク・アードマン氏・新保淳乃氏  
コーディネーター:木戸雅寿・松下浩
4. 定員 200名(事前申込制 先着順 参加無料)
5. 主催 滋賀県

### 参加申込方法

1. FAX・電話・メールで、住所(市まで 番地不要)・氏名(ふりがな)・連絡先(携帯電話推奨)を下記まで。
2. 申込締切 令和5年9月14日(木) 17:00

### 参加申込・問い合わせ

滋賀県文化スポーツ部文化財保護課安土城・城郭調査係  
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号  
TEL: 077-528-4678 FAX: 077-528-4956 E-mail: castle@pref.shiga.lg.jp  
城郭調査事務所 TEL: 0748-46-6144

### その他

1. コラボしが21の駐車場はご利用いただけません。公共交通機関をご利用の上、ご参加願います。お車でお越しの場合は、付近の市営駐車場等をご利用ください。
2. 体調不良の場合は参加をお控え願います。
3. 新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては休止にすることもあります。その場合は参加申込をされた方にはその旨連絡します。

「幻の安土城」復元プロジェクト

# 「安土山図屏風」等探索事業について



滋賀県文化スポーツ部文化財保護課  
松下 浩

## 1. 「安土山図屏風」

- ・織田信長が狩野永徳に安土城と城下町を描かせた屏風
- ・信長から巡察使ヴァリニャーノに贈与
- ・ヴァリニャーノが組織した天正遣欧使節によって1585年、ローマ教皇グレゴリオ13世に献上
- ・現在は所在不明
- ・安土城の外観を描いた唯一の絵画資料

## 2. 「安土山図屏風」調査の歴史

### (1) 滋賀県による調査（昭和54年～昭和61年）

- ・現地調査員を委託 バチカン博物館・教皇庁図書館・秘密文書庫などの収蔵記録を確認
- ・グレゴリオ13世の実家、ボンコンパーニ家の末裔の資産と記録の調査
- ・県職員と安土町長がバチカン訪問、イタリア放送に話題提供

### (2) 安土町による調査（平成16年～平成19年）

- ・安土町長のローマ訪問
- ・調査団を派遣（団長：故若桑みどり千葉大学名誉教授）
- ・『安土町屏風絵探索プロジェクト学術調査報告書（平成18年度調査報告書）』（安土町 平成21年）として調査概要を報告
- ・バチカン教皇庁秘密文書館・教皇庁図書館・ローマ国立古文書館・教皇宮殿物品庫・教皇庁博物館古文書館において財産目録・収蔵品目録を調査
- ・伊東マンショ、メスキータ神父の肖像を発見～長崎歴史文化博物館が購入
- ・ウィングの書簡（1592年7月）「地図の画廊でラツィオの地図を模写」～この時まで屏風が地図の画廊に存在した可能性
- ・アゴスティノ・タジャの著述（1750年出版）に屏風の記載無し～この時まで地図の画廊から移動

### (3) 安土図屏風探索ネットワーク（ASRN）による調査（平成29年～）

- ・メンバー：杉本博司・相原玄（杉本スタジオ）  
新保淳乃（武蔵大学講師）

パオラ・カヴァリエレ（大阪大学特任准教授）  
マーク・アードマン（メルボルン大学講師）  
エリアン・ルー（ハーバード大学研究員）  
アントン・シュバイツァー（九州大学教授）

- ・バチカン図書館・バチカン美術館収蔵庫・バチカン枢密文書館・ローマ国立古文書館・カピトリノー古文書館・イエズス会古文書保管所等を調査
- ・グレゴリオ13世以降の歴代教皇の出身家系の財産目録、バチカン教皇宮殿の動産目録等の調査
- ・調査1：所蔵先の追跡
  - ①教皇を輩出した家系のコレクション ②教皇宮殿の収蔵庫 ③外交贈答品としてバチカン外に流出 ④イエズス会のローマ学院に保管
  - ※可能性のある所蔵先を網羅的に調査
- ・調査2：設置場所の再検討
  - 地図の画廊ではなく世界地図の画廊である可能性
- ・調査3：ウィングと東洋学者ネットワークの研究～屏風の素描・複製に言及した歴史資料の調査～屏風の図像の伝播の追跡

※直接的な屏風の所在調査だけではなく、屏風に関する情報の広がりについても視野に入れて調査を展開

#### 4. 「幻の安土城」復元プロジェクト（令和元年～）

- ・今は失われた安土城の姿を目に見える形に復元し、安土城の価値・魅力を広く発信する。
- ・安土城の外観を描いた唯一の絵画資料として屏風の所在を探索～「安土山図屏風」等探索事業
- ・広く屏風に関する情報を求めるため、6カ国語のHPを公開、チラシを配布
- ・令和5年5月23日、大杉副知事がバチカン訪問。バチカン高官と面談、知事の親書を手渡し、今後の交流と屏風探索への協力を依頼。バチカン高官からは暖かい対応と今後の交流、探索への協力を約束

## ヴァン・ウィングが描いた安土山図屏風スケッチの再考 Reconsidering van Winghe's Sketches of the Azuchi Screens

メルボルン大学  
マーク・アードマン

### 安土山図屏風探索の意義

- ・ 1582年に焼失した安土城の視覚記録として高い歴史的価値をもつ
- ・ 日本美術史上最も華麗な障壁画の代表的画家、狩野永徳(1543-1590年)の真筆作品として国宝級の価値をもつ
- ・ 信長が巡察師ヴァリニャーノに贈呈し、天正遣欧使節を通して教皇に献呈。16世紀における東西文化交流を象徴し、世界に日本を知らしめた重要な作品

### ヴァン・ウィングの版画の由緒

#### 安土山図屏風スケッチに関する人物と出版

Philips van Winghe **フィリッポ・ヴァン・ウィング** (1560–1592年)：フランダース人、初期キリスト教考古学者。1589年からローマに入る。

Jean L'Heureux ジャン・ルールーズ (別名 Macarius マーケリアス, 1540–1614年)：ヴァン・ウィングのローマ時代の友人。

Jérôme van Winghe ジェローム・ヴァン・ウィング (別名 Hieronymus van Winghe ヒエロニムス・ヴァン・ウィング, 1557–1637年)：フランダースのトルナイの律修司祭。フィリッポの兄。

Nicolas-Claude Fabri de Peiresc **ニコラ・クロード・ファブリ・ド・ペーレスク** (1580–1637年)：フランス人。博学者であり学問の共和国の中心人物。

Republic of Letters 学問の共和国：ルネサンスから啓蒙期にかけて、手紙のやりとりを通して学識教養人が政治的・宗教的国境を越える知識人のコミュニティ。

Lorenzo Pignoria ロレンソ・ピニョリア (1571–1631年)、パツァ人、イエズス会で教育を受ける。司書、副牧師、律修司祭、学者；『西欧古代神話図像大鑑』を改訂し、「続篇—東洋・新世界」を付け加えた。

*Imagini delli Dei de gl'Antichi* 『西欧古代神話図像大鑑』：学者とアーティストのためのギリシャ・ローマ神話に関する参考資料；元々 Vincenzo Cartari ヴィンチェンツォ・カルタリ (c. 1531-1590) が出版；ピニョリアが 1615年、1624年、1626年、1647年に改訂。

Filippo Feroverde フィリッポ・フェロヴェデ (別名 Philip Esengren フィリッポ・エセンレン (17世紀初): ドイツ人。アーティストであり学者。『西欧古代神話図像大鑑』改訂版の木版画を作成。

安土山図屏風スケッチに関するタイムライン

3月 1582年	天正遣欧少年使節が安土山図屏風を携え長崎から出発。
3月 1585年	天正遣欧少年使節ローマ到着・安土山図屏風を法王グレゴリウス 13世に献上
7月 1592年	フィリッポ・ヴァン・ウインゲがヴァチカンを訪問した際、安土山図屏風を見て、それをスケッチした可能性が高い。安土山図屏風の最後の目撃者である記録がある。
9月 1592年	ヴァン・ウインゲ、マラリアで死去。 ジャン・ルールズがヴァン・ウインゲスのスケッチを含めた彼の遺産を得る。
1594-7年	トルナイにいるヒロニムス・ヴァン・ウインゲがルールズから弟の遺産を得る。
1606年	ペーレスクがトルナイのヒロニムスを訪問。彼がヴァン・ウインゲの安土山図屏風スケッチを見た可能性ある。
8月 1612年	ペーレスクがヒロニムスから安土山図屏風スケッチを含めるヴァン・ウインゲのノートを借りる。1623年までそれを持っていた。
1615年	ピニョリアがカルタリの『西欧古代神話図像大鑑』改訂版を出版。ピニョリアのディレクターであるフェロヴェデが改訂前の挿絵を改める。この時にはヴァン・ウインゲの安土山図屏風スケッチは入っていない。
1月 1616年	ペーレスクが1615年の『西欧古代神話図像大鑑』をもらい、友人のピニョリアに手紙で、「続篇一東洋・新世界」のために安土山図屏風スケッチを含めた三つの研究資料を紹介したいと書いた。その後、スケッチをピニョリアに送った模様。
1624年前	フェロヴェデがペーレスクからもらった絵を木版画にした。
1624年	ピニョリアが安土山図屏風スケッチを含める『西欧古代神話図像大鑑』改訂版を出版。1626年と1647年に再版。

569頁を読む

フェロヴェデまで絵の進化

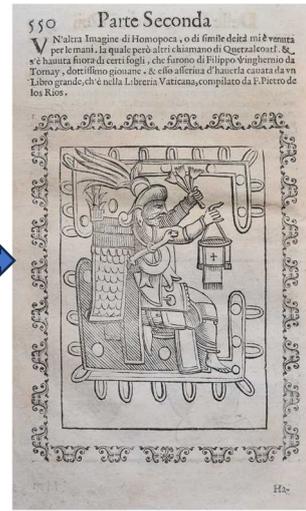
アステカ神話の文化神 Quetzalcoatl ケツァルコアトルの例



元々 (Codex Rios)

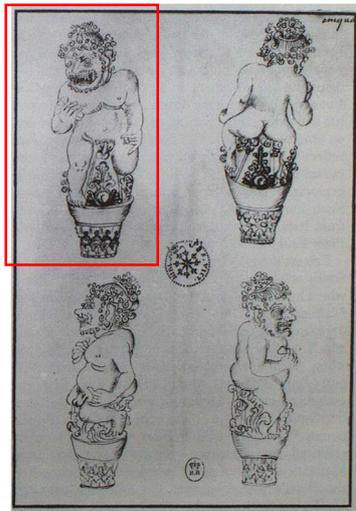


ヴァン・ウィングのノートのコピー



『西欧古代神話画像大鑑』

インドネシア短刀の柄の彫刻の rakshasa ラークシャサの例

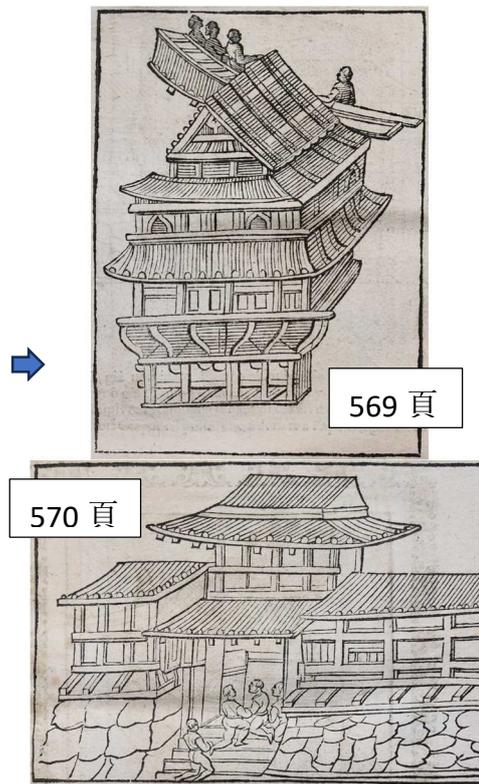


ペーレスクのスケッチ



『西欧古代神話画像大鑑』

安土山図屏風スケッチの例



永徳の跡形を探す

狩野永徳筆

「洛中洛外図」上杉本・1565年頃・六曲一双紙本金地着色、160.4×365.2cm・米沢市上杉博物館。

「洛外名所遊楽図屏風」・1565年後・四曲一双紙本着色、85.4×177.0cm・個人蔵

狩野派筆

「聚楽第図屏風」・1590年頃・六曲一隻紙本着色、156.0×355.0cm・三井記念美術館所蔵



建築的背景要素

瓦葺き入母屋、2重、3-5間幅 × 3間奥

建築的近景要素

## 安土山図屏風に描かれた主題

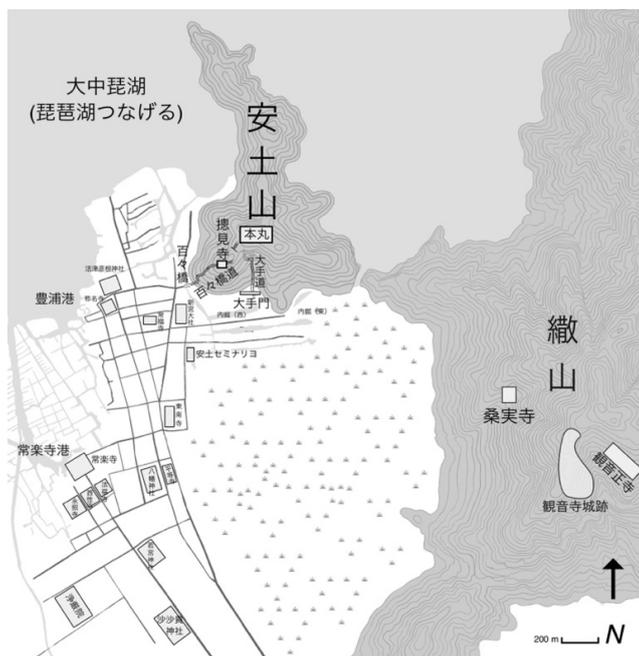
### 史料に見る安土図屏

“…saluo se o padre desejasse de leuar pintado o seu mesmo Collegio…” もし父親が自分自身の大学[セミナリオ]を描かれた物が欲しいと思ったら - Gaspar Coelho (Feb. 1582 年)

“figurando nelles o sitio a alagoa, as cazas, a fortaleza, as ruas, as pontes e tudo o mais.”  
そこには、場所、ラグーン、家、要塞、通り、橋、その他すべてが描かれています。 - Luis Fróis (1583-1597 年間)

“…la rapresentatione de gli animali di quel paese, d’huomini à cavallo, à vacche invece di cavalli…” その国の動物、馬の代わりに牛に乗る男性の表現 - Teodosio Panizza (1585 年)

“Fra questi il meglio eran due panni da addobbo, che colà chiaman Beobi, nell’vn de’ quali era effigiata a pennello la nuoua Città, nell’altro l’inespugnabil Fortezza d’Anzuciana” そのうち、最も優れたものは、かの地に於いて屏風と称する、二枚の家具の一つには安土山の新市、他の一つには安土山の難攻不落の城を画きたるものなり。 - Bartoli, Daniello (1660、杉森訳)



安土山と周り、木戸 2008 と滋賀県城郭調査研究所 2004 による

### ヴァン・ウィングとピニョリアの安土山

“IL già nominato Filippo Winghomio in certo fuo foglio difegnò già i **Tempij d’alcune Deità Giaponefi, fituati fopra alcuni alti rupi.** & raccontaua d’hauerli cauati dalli Pittori, che gl’ Ambaffiatori Giaponefi portarono à donare a Papa Gregorio XIII.” 先述のフィリッポ・ヴァン・ウィングのページで、[その方]も**険しい石の上に置いた日本の神様の寺**が描かれていた。彼は日本の大使が持って来て教皇 Gregory XIII に差し上げた画家の作品から写した。 - Pignoria (1624)

“Di più un **tempo de'Giapponesi in cima ad un monte cavato** dalle pitture che gli Ambasciatori Giapponesi dorono a Gregorio XIII di veneranda memoria.” さらに、日本の大使がグレゴリウス 13 世に贈った思い出の絵画を彫った**山の頂上に日本の寺**がありました。 - Peiresc (1616)



...mandou fazer hum **templo junto de seus paços em hum monte que esrà separado da fortaleza**, onde escrcueo o intéto de sua venenosa ambição, emqdzia desta maneira, tresladado dela paó em nossa lingoagem: *Em estes grandes reinos de lapaó na fortaleza de Anzuchiyama nesia: serra que vista de longe causa alegria, contentameto aos que a vam. Nobunanga senhor derodo o lapaó sez este templo, por nome **Soquénij**...*lhe mandou fazer **no mais eminente lugar do templo sobre todos os** Fotoques hua certa maneira de charola, ou capelazinha sechada...

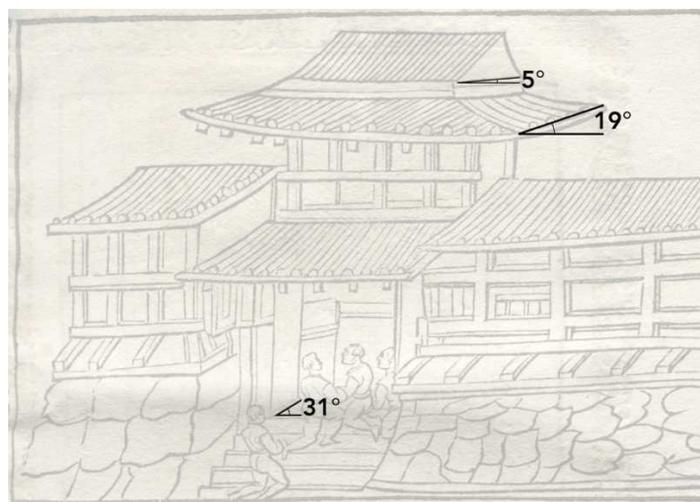
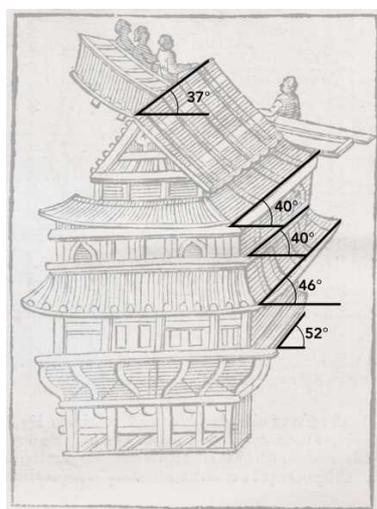
その宮殿に隣接し、城を離れたる山の上に寺院を建築することを命じ、この寺院につぎの如く記して、その名誉心の欲するところを表した。これをわが国語に翻訳すれば次の通りである: 当日本の大國において、遠方より望む者に喜悦と満足を与える安土山城の山に、全日本の領主信長はこの寺院を建立し、**総見寺**と名附けた。これを大いに尊崇する者の受くべき功德と利益は次の如し。...彼は**寺院の最も高き所、諸仏の上に壁龕**を造らせ - Frois (Nov. 1583 村上訳)

#### 總見寺本堂の進化

	推測年	名前		史料	1重	2重	他
569 頁 ビル	1579 -1580 年	-	-	『西欧古代神話 図像大鑑』1624 年	3-5 間幅 ×3 間 奥、棧 唐戸	入母 屋、火 灯窓	瓦葺き
ビル A (安土城 前)	? 年- 1576年	-	-	史料なし 甲賀から?	-	-	-
ビル B1	1576 -1582年		-	信長公記 1610 年頃	-	-	-

ビル B2		毘沙門堂		フロイス Nov. 1583 年	仏あり	厨子に似ている	-
	1582 -1791 年	-		江州蒲生郡下豊浦村与須田村山論立会絵図 1695年	2×2 間、入 母屋、 縁側	2×2 間、入 母屋	瓦葺き、 赤色柱、 白色間
ビル B3	1791 -1805年	方丈		總見寺境内絵 1791年	5×5 間、縁 側、棧	3×3 間、二 手先組	瓦葺き、 扇垂木、 円柱
				境内坪数並建物 明細書 1791年	唐戸、 火灯 窓、平 三斗、		
ビル C	1805 -1854年	本堂		木曾路名所図会 1805 年	5 間幅 ×3 間 奥、石 台、火 灯窓、 棧唐戸	2 階、 入母屋	瓦葺き

### 安土山図屏風の視点と 570 頁を見る



### 欧米語参考文献

Bartoli, Daniello. *Dell'istoria della Compagnia di Giesv Il Giappone: seconda parte dell'Asia*. Rome: Nella stamperia d'Ignatio de'Lazeri, 1660.

Coelho, Gaspar. "Carta annua de Iapão q escreuco o Padre Gaspar Coelha de Nangaçaquí, a quinze de Feuereiro do anno de 82. ao Padre Geral da Companhia de Iesv." In *Cartas que os padres e irmãos da Companhia de Jesus escreuerão dos Reynos de Iapão & China aos da mesma Companhia da India, & Europa des do anno de 1549. até o de 1580*, edited by Manoel de Lyra, 17r-48v. Tokyo: Tenri Central Library, 1972.

- Fróis, Luís. *Historia de Japam*. Edited by José Wicki, S.J. Vol. 3, Lisbon: Presidência do Conselho de Ministros Secretaria de Estado da Cultura Direcção-Geral do Património Cultural Biblioteca Nacional de Lisboa, 1982.
- Pignoria, Lorenzo. *Le vere e nove imagini de gli dei delli antichi di Vincenzo Cartari reggiano. ridotte da capo a piedi in questa nouissima impressione alle loro reali, & non più per l'adietro osseruate simiglianze. cavate da' marmi, bronzi, medaglie, gioie, & altre memorie antiche; con esquisito studio, & particolare diligenza*. Padua: P.P. Tozzi, 1615.
- Pignoria, Lorenzo. *Le imagini de gli dei de gli antichi del signor Vincenzo Cartari, reggiano, nelle quali sono descritte la religione de gli antichi, li idoli, riti, & ceremonie loro, con l'aggiunta di molte principali imagini che nell'altre mancavano, et con l'espositione in epilogo di ciasceduna & suo significato*. Venice: Appresso Euangelista Deuchino, 1624.

#### 参考文献

- 岡垣頼和、浅川滋男「仏を超た信長—安土城總見寺本堂の復原—」『鳥取環境大学紀要』第8号、2010年
- 大橋善之「永徳の「安土山図屏風」について分かったこと分からないこと」『西欧古代神話図像大鑑・続篇—東洋・新世界』、193-253、東京：八坂書房、2014年
- 木戸雅寿『よみがえる安土城』東京：吉川弘文、2003年
- 滋賀県安土城郭調査研究所編。『発掘調査15年の軌跡図説安土城を掘る』彦根：Sunrise、2004年
- 杉森哲也「都市図屏風の成立と展開—近世都市の成立」『近世都市の成立』都市・建築・歴史5、鈴木博之編、東京：東京大学、2005年
- 村上直次郎訳、『イエズス会士日本通信 上 耶蘇会士日本通信 豊後・下篇 上卷 (新異国叢書)東京』：雄松堂書店 1968年

# 『安土山図屏風』について

## ～ 五つの疑問 ～

滋賀県 参事員 木戸 雅寿

### 1 広く知られていること

- ・織田信長が、自らの発案で安土山と山下町の様子を屏風に描かせた。
- ・描くにあたっては、何度も注文を付け、寸分たがわぬように正確に描かせた。
- ・作者は、一般的に狩野永徳と言われている。
- ・屏風に正親町天皇の讃を受け、安土を訪れて帰国するイエズス会巡察師アレックスサンドロ・ヴァリニャーノの餞別として送った。
- ・ヴァリニャーノは、この屏風をローマ教皇に献上することとし、天正遣欧少年使節に託し、バチカンに運ばせ、収蔵展示された。

### 2 五つの疑問

- ① 実は、正式な名称がない。
- ② 作者が確定していない。
- ③ 正親町天皇は何を記したのか。わかっていない。
- ④ 屏風の形状がわかっていない。
- ⑤ 遣欧少年使節は、他に「救世主図屏風」・「キリスト受難図屏風」の二つの風を持っていった。それらはどうなったか。

#### ① 実は、正式な名称がない

当時の記録には、正式名称(ビオボ・ビョンブ)がない。

- ・「安土山屏風」 濱田耕作 「安土山屏風について」『仏教美術』(1931)
- ・「安土城之図」屏風 滋賀県の屏風探索(1984)
- ・「安土城図」若桑みどり『クアトロ・ラガツィー天正少年使節と世界帝国』(2003)
- ・屏風絵「安土城之図」近江八幡市プロジェクト (2005)
- ・「安土図屏風」竹本千鶴『「安土図屏風」を描き遺したフランドル』人』(2010)  
日蘭学会誌
- ・「安土城図屏風」榊原悟『贈呈屏風の研究』概要 早稲田大学学位論文(

- ・「安土城図屏風」、「安土山図屏風」橋本麻里(永青文庫副館長)『芸術新潮』(2018)
- ・「安土城図屏風」「杉元博司と探す 安土城図屏風探索プロジェクト」(2018)
- ・「安土山図屏風」滋賀県安土城復元プロジェクト(2019)
- ・「安土山図屏風」新保淳乃「安土山図屏風のゆくえ」(2022)

## ②作者は誰か?

「あつちのていかのけん七郎にひやうふかゝせて。」

安土の躰、狩野けん七郎に屏風、描かせて。

天正8年8月13日(『御湯殿上日記』)

- ※狩野松栄：通称源七。 永徳の父
- 狩野永徳：通称源四郎。松栄の長男

永徳ではなく、父の松栄ではないかす、とする研究者もいる  
日記の誤記であると主張する人もいる。  
狩野一派の作であることは間違いがない。

## ③正親町天皇は何を記したのか。

「のふなかけさんに入る。しゅんちやうけんもたせてまいる。こよひはこなたにをく。」天正8年8月13日(『御湯殿の上日記』)

信長見参に入る。 春長軒持たせて参る。 今宵は此方に置く。

「昨日のひやうに。ちよくしよをと申しまゝ。あくひつをそめいたすつかいくわんしゆう寺中納言。ひのゝしん中納言文をもちてのふなか所へゆく。」天正8年8月14日(『御湯殿の上日記』)

昨日の屏風に。勅旨をと申すまま。悪筆を染め致す、使い勸修寺中納言。日野の新中納言、文を以て信長の所へ行く。

はたして、正親町天皇は何を記したのか。

- ※賛(さん) 絵を見て、その絵に対する評価を絵の余白に書いたもの  
おもに掛軸が多い。天皇の賛は少ない。

## ⑤ 実は、屏風の形状が良くわかっていない

よく知られているような、六曲一双のようなものではない可能性がある。

記録では、長さ二乃至三ブラッサ、高さ二ブラッサの二つ折れの屏風がひとつ  
or ふたつだった。 1 ブラサ(braza)=1.6718m=167.18cm